

料金後納

ゆうメール

育脳寺子屋通信

〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20

育脳寺子屋MAC

TEL 075-871-0374

FAX 075-882-3777

URL <http://www.mac-terakoya.com>

e-mail 4411@mtf.biglobe.ne.jp

teaching → learning

これからは「学び」の教育

中信ビジネスフェア出展（10月17、8日）の報告

担当・田中より

一般企業の社長や管理職の方から育脳寺子屋の理念に賛同者続出！

両日天候が悪かったにも関わらずフェア全体では約9,500人の来場があり、育脳寺子屋のブースでは60名の方が話を聞いて下さり、また育脳トライアルにも挑戦して下さいました。

みなさん育脳寺子屋の

『知識詰め込みではなく、社会に出てから活躍できる自由な発想ができる子を育てる』

という理念

に賛同して下さい、中には自分の子どもを通わせたいけど、遠いから無理だ・・と嘆く方もいらっしゃいました。

興味をもたれたのは、

一般の方をはじめ、幼稚園の先生、障害者支援学校の校長、企業の方と様々です。

特に社長や管理職の方の多くは、

「言われた事しかしようとしない」

「自分で考えて行動しない」

若者に悩まれていました。

これからはますます、**知識よりも発想力や創造力、行動力のある人間が必要とされる時代**になりますので、育脳寺子屋の理念や取り組みを評価して下さいたのでしょう。

また、即売会をした育脳寺子屋オリジナル鉛筆の持ち方矯正器具「モデルン」も大好評！

多くの方がお子さんや孫のためにと買って帰られました。みなさん口々に「うちの子（孫）は変な持ち方なのよ！」とおっしゃっていました。

これから、増々「育脳寺子屋の理念」が理解され、「育脳寺子屋に対する期待度」が高まってくると実感しました。

以上

いろんな子がいるのに、こんな授業スタイルでいいの？

から出発しました。

授業スタイルを変えることを決定づけたのは、ある生徒の一言。

「先生、〇〇塾は少人数で教えてくれはるね！MACみたいに大人数ではないので、そっちに替わるわ！」平成になって数年後のある日、生徒にこう言い放たれたのです。

大人数を対象にした一斉授業にこれでいいの？ これでいいの？？と考えながら、日々取り組んでいた時のことです。

なぜ、これでいいの？と常に考えていたのかと言いますと、こちらの説明に分かっているような素振りを見せてはいるけれども、本当は分かっているまいだろうなという生徒が何人かいたからです。

周りに競合する塾の無かった時代（昭和54～55年）、この頃は厳しく指導してもらえるからと中学部には多くの生徒が集まりました。

生徒も、中位以上の成績者が主流！前年の12月までにほぼ定員（1学年70名）に達していました。こんな今から思えば夢のような時代があったのです。

ところが、周りに少人数対象、親切丁寧を売りにする塾が現れました。これに呼応するように、成績中位以上の生徒だけでなく下位の生徒も来るようになりました。いろんなレベルの生徒が集まりだしたのです。そこで、クラス分けをしましたが、対応できません。

一斉授業では絶対無理！

だったら、個人授業！

でも、一人ひとりのブーススタイルは、大いに問題あり！自立学習を謳っている1対2での指導をしている塾から転塾してきた生徒の話によると、

「分からない時はやっているふりだけして時間の来るのを待っている。退塾の時間が来れば必ず答えを教えてくれるから」と。

しかも、ほとんどの家庭教師と同じで教え過ぎになり、本当の力につながらないのは明白です。

個人授業ともなれば、多くのスタッフが必要となり、人件費や人集めに頭を痛めることになります。しかもスタッフは学生に頼るしかないのですが、学生の質が大幅に低下してきているのです。

ではどうすればいいの？

でも、いろんな子がいるのに、こんな授業形態では無理！
学校での授業スタイルの二番煎じでは・・・

これが今から 20 数年前の話です。

そこで、まずは形からと、机の配置を黒板を無視した状態にして、一斉授業は廃止。

同時に教育機器にも手を出していました。

キーズに始まり、吉備システム、ネスコムなどを採り入れましたが、なかなかうまく使いこなせません。結論は失敗、高い授業料を払いました(ー-;)

それなのに、また 5 年前に天神システムを・・・今度はメインとしてではなく、あくまでサブと位置づけて。でも、結局、学習指導要綱の改定時に高いシステム改定料の提示を受け、継続を断念！

・・・高くつきました(>_<)

結論的には、成績中位以上の生徒は、どのような形にしても結果を出すのですが、下位の生徒には**対話重視の個別対応できる授業システムが必要不可欠**であるとの結論に。

ところで、

MACの前身は、ソロバン塾です。

小学生にはソロバンを指導、中学生には学習の指導をしていました。

ところが、そろばん塾の生徒が集まらなくなりました。500名いたソロバンの生徒が見ているうちに300名、更に減少一途に。

減る一方の状態に手をこまねているわけにはいきません。思いきって1週間で算数教室に変更しました。

ダメであればすぐに変えていくのが、MACの信条です。

ここで、経営的にも一息つくことが出来ました。

しかしながら、前述したように周りに親切丁寧を売りにする多くの学習塾が林立するようになり、またもや生徒数が減少、小学生は10数名になってしまいました。

それと、ソロバン指導から撤退したことにより、生徒たちの計算力がひどい状態になっていました。

やっぱり、ソロバン！

そこで、10数名の小学生に、全員ソロバン指導をすることを一方的に宣言しました。授業内

容も、学校の授業に追随するのではなく、学力の幹になる「読み・書き・ソロバン」をメインにした授業内容に変更。

10 数年前のことです。

キーワードは「楽しく」！しかも、教材で！！

まず、「**育脳トライアル**」に取り組みました。

最初は、中学生から。上々の反応です。今度はどんな問題？ と次を楽しみに聞いてきます。

○×の問題でなく、解答する生徒の考えを問う問題もあります。

「えっ、本当にこの答えでいいの？」

「OK、OK！」

その結果、目がキラキラと輝き、生徒の顔に自信がみなぎり、考えることが楽しくなってくるようです。

小学生も、大幅に授業内容を刷新。

低学年には、切り絵、立体パズルなど。

次に取り組んだのが、「**育脳ことばのワーク**」。今の子の言語力不足を補うものです。

イラスト満載、分からないときはイラストやヒントを見れば分かるようにしています。

次に、ソロバンの利便性に視点を定めた「**育脳計算ワーク**」も。

また、塾の対象を、時流を考え、「生徒と母親」だけでなく「父親」にも授業内容を理解してもらうために「**親子で育脳トライアル**」も……主に外に向けてのPRに使用

当初は 60 分授業だったのに、今の子には、これが足りない、あれが足りないオリジナル教材が増え、今では 90～100 分授業に。

この授業体型の最大の長所、それは成績上位層から下位層までどのような生徒にも個別対応できるということと、本当の自立・自律学習（自立を謳う塾を多く見受けますが、本当に生徒自身から自発的に取り組む授業が出来ているところはとても少ないと感じています）を推し進めることが出来たことです。

MACの授業は、オープンスペースでの個別対応形態なのです。オープンスペースにしたのは、生徒への教え過ぎを防ぐためです。

この授業体型により、生徒たちの成績も大きく躍進しました。今の中3生の進研模試での結果は、

ほぼ全分野において平均を超えており、偏差値も常に70を超えている生徒もいます。(平均 50 後半)

この発想の源は長年の生業としていたソロバン塾の授業形態に他ならないのです。言い換えれば、長年のそろばん塾経営が、今の学習塾の経営に生かされたと言えます。

気がつけば、**平成の寺子屋**状態。小学生時に基礎・基本を習得させることの大切さを実感しています。そこで、「**育脳寺子屋**」という名称にして商標登録もしました。

かという、寺子屋では一斉授業をおこなっていないということである。教師が黒板や掛け図を用いて、一定の教科内容を教室の生徒全員に教えるという授業形態は明治になってから、欧米の教授法として導入されたものである。そこでは等級別にクラスが編成されていて、授業（内容）についていけない子供たちは、原級に留め置かれるか、理解不十分のままひとつの課程を終えることになる。これに対して、寺子屋では寺子の数が一〇〇人を超えても、一斉授業という形態をとらないので、子供一人一人の発達の度合いに応じた指導が可能となる。また、天神機の配置の仕方によつては、先に進んだ子供がおくれた子供を指導するということも可能になる。

こうした寺子屋の教育方法は一見して経済効率が悪く、「手間」（お金）と「暇」（時間）がかかるもののようにみえる。しかし、一人ひとり異なる個性と能力を持った人間を教育することと、均一な個性に仕上げるために一定の基準と目的を設定して一斉に授業することとは基本的に異なる。近代に導入された一斉授業は、大量の子どもたちに一定の知識を教授することにおいては非常に効率的である。能力別にクラスを編成すればより効率的となる。しかし、学問や教育において経済効率を追求するようになると、学問や教育から人間形成の要素が希薄になり、社会や経済に還元し得る知識や情報の獲得という実学的観点だけが肥大化してくる。寺子屋の学習形態をみることによって、我々は、自明のものとして疑いもなかった今日の教育形態の短所に気づかされるのである。



「一掃百態」にみる寺子屋
『一掃百態』の著者である渡辺華山は田原藩士で、洋学を学び蚕社の獄に連座して自殺する。寺子屋の図は、洋画の手法による写実主義を採用し、喧嘩をしている子や学習に飽きた子などが生き生きと描かれている。現在では、さしずめ学級崩壊というような状態であるが、一斉授業を原則としない寺子屋では、のびのびと学ぶ子どもの様子として肯定的に表現されている。

渡辺華山（一七九三～一八四二）の「一掃百態」など、近世の絵画で、寺子屋が描かれている図をみると、今日のように教師が前に位置し、それに子供たちが列をなして対面しているものは皆無である。寺子屋では、基本的には子供たち同士がそれぞれの天神機を対面に配置して座り、師匠は全員の寺子が見通せる場に位置しているのが一般的である。これは何を意味しているの

ところが、上記のように「日本人を作った教育」に記載されていた、江戸時代の寺子屋のページを読んでビックリ、何と授業形態が、M A Cが長年かかって積み上げてきた授業形態そのものだったのです。

「育脳トライアル」にて生徒集客をさらに促進する取組みのお勧め

今回、小4以上対象の「B-2」も作製しました。

ぜひ、新学期に備えて、日本で初めて！

親子で向き合って楽しく取り組める「親子で育脳トライアル」

にて、「育脳トライアル」のアピールを！

「親子で育脳トライアル」は

年中 (α-1) 年長 (α-2)

小1 (A-1) 小2 (A-2)

小3 (B-1) 小4以上 (B-2)

6バージョン揃えています。

MACでは、前回「親子で育脳トライアル」された保護者から、また、ぜひやりたいという要望が多数寄せられていますので、前倒しして配布いたします。

その際、今回は、幼児のバージョンもありますので、弟や妹にも体験してもらおうという先行投資(*^_^*)を実施いたします。多くの人の目に触れることが、生徒増に結び付きますので・・・

育脳トライアルでは、高校生になっても下記のような親子の対話が！！

(寺子屋コースだけでなく、他のコースでも結果が出ると確信しています)

保護者欄 いつも お世話ににより ありがとうございます。

昨日 テレビのクイズ番組で(頭脳王を決める番組でだったのが)
出題される問題は真がトライアルで見たものがたくさんあり、いつもの
ように子供と答えを言い合っている様子を見て、正解率が高い事に
驚きを感じました。特に高学年の子供が、京大や東大出身
の芸能人が苦しいで不正解している様子を見て、問題も、正解しているの
には少し驚きました。「すごいやん!!」と言うと、「何年MAC通ったと
思っているの?! オレの頭脳はMACで金段えられたんや!」とほこらし気に
言っていました。実証されるとトライアルで育脳されている事が本当に
大切だとあらためて感じました。三男も「トライアルと同じ問題は」と
言っている様子で正解しておりました。

10月下旬より、保護者に向けて 入塾の際し、なぜMACを選ばれたのかアンケートを取っています。

MACでは、学校の勉強だけでなく、先生方への話し方、言葉使い、あいさつ、また、
物のあつかいなど、本来 家庭や学校生活で身につけておくべき事を、細かく
教えてくださるよう感じています。

そして、普段 日常生活で知っているべき言葉で、知らない言葉がとて多くなっ
てきているのですが、ことばのフーでは、そういった「ことば」にもふれる機会を
つくっていただいていると感じています。

小さい子どもから 高学年の子どもまでが、一緒に協力しながら学習する
スタイルも魅力的で、うちの下の子は、いろんなお兄さん、お姉さんに助けられていながら
成長していると思います。学校や地域でも、そのつながりは生きており、
知っている仲間がどんどん増えていくのはステキだと思います。

次回には、このアンケート結果を詳しくお知らせいたします。